

日本の大地を彩る花

# さくらそう展

つくば植物園 平成19年4月21日(土)～30日(祝)

**春** 先にピンク色の可愛らしい花を咲かせるサクラソウ園芸品種の源は野生サクラソウです。野生サクラソウは絶滅危惧Ⅱ類とされ、その保全が求められています。野生サクラソウを保全することはその地域の健全な生態系を保全することでもあります。筑波大学では300系統もの園芸品種を貴重な遺伝資源として保存するとともに、野生サクラソウの保全や繁殖に関する研究も精力的に行っています。今回のさくらそう展では、筑波大学が保存している園芸品種コレクションと野生サクラソウを見比べながら、野生サクラソウの自生地保全の意義と現在各地で行われている保全活動について紹介したいと思います。

## ○セミナー

4月21日(土) 午後2時30分から午後4時まで

「サクラソウの科学の今：進化と保全の視点から」

鷲谷 いづみ (東京大学 教授)

(お電話での事前申込みが必要です。TEL. 029-851-5159)

## ○展示案内

4月22日(日) 午後2時から午後3時まで  
講師：大澤 良(筑波大学 准教授)

4月28日(土) 午後2時から午後3時まで  
講師：半田 高(筑波大学 准教授)

(研究成果を説明しながらさくらそう展をご案内します。)



サクラソウが一面に咲く草原



群生するサクラソウ



野生のサクラソウ



訪花するトラマルハナバチの女王

**桜** 草、その名前の通り、桜のような花をつける草花は、今から約300年前の江戸時代になると、野山に自生している個体から多くの園芸品種が作り出されるようになりました。江戸時代の粹人たちは、野生のサクラソウの花の多様性に注目し、さらに交配・選抜を行うことで、野生のサクラソウにはみられない様々な色、模様、形をもつ園芸品種を作り出していったのです。さくらそう展では、これまでに作り出された園芸品種を展示するだけでなく、江戸時代から始まったサクラソウの園芸文化、そしてDNA分析などの最新の技術を用いて明らかになった、サクラソウ園芸品種の300年の歴史を紹介します。



## ■ 交通案内

- つくばエクスプレス「つくば駅」下車 (つくば駅A4番出口) ●つくばセンター乗り換え (秋葉原駅から約45分)
- つくばセンターから「テクノパーク桜循環」で「筑波実験植物園前」下車徒歩3分
- つくばセンターから「筑波大学循環」左回りで「天久保二丁目」下車徒歩8分
- 常磐自動車道・桜土浦I.C. から北へ約8km

## ■ 入園案内

### 開園時間

9時～16時30分 (入園は16時まで)  
※ 期間中は休園しません

### 入園料

一般・大学生 300円 児童・生徒 無料  
団体割引 (20名以上) 200円

国立科学博物館・筑波実験植物園

〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1 TEL. 029-851-5159(代表)